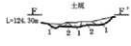


- 22・23号住居跡 A-A' B-B'**
- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物を含む。
 - 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
 - 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。
 - 5 暗褐色土層 黄褐色土粒子、炭化物粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
 - 6 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。
 - 7 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。



- 22号住居跡カマド C-C'**
- 1 暗褐色土層 黄褐色土を多量に、焼土を含む。
 - 2 赤褐色土層 焼土主体の層。
 - 3 暗褐色土層 軟らかい。焼土、黄褐色土、炭を多量に含む。
 - 4 灰褐色土層 軟らかい。炭を多量に、焼土、炭化物を含む。
 - 5 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 6 暗褐色土層 硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。



- 22号住居跡貯蔵穴 E-E'**
- 1 暗褐色土層 軟らかい。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
 - 3 黒褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子を含む。

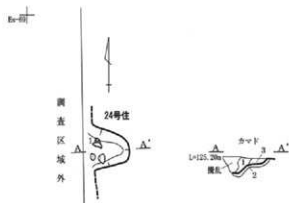
- 22号住居内土坑 F-F'**
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子、骨粉を少量含む。
 - 2 黄褐色土層 硬く締まり粘性あり。黄褐色土を多量に含む。



- 23号住居内ピット H-H'**
- 1 炭化物層



第218図 22・23号住居跡



第219図 24号住居跡

22号住居跡 (①第218図②第128図、PL.196・225)

位置 Ei-68、Ej-67・68グリッドにかけて検出した。

23号住居跡と重複している。

形状 長辺約4.4m、短辺約3.6mの方形を呈する。

方位 N-50°-E

覆土 地山を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約34~46cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸がある。面積は約6.3m²。

周溝 検出できなかった。

竈 北東隅に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向100cm、両袖方向64cmである。袖石が残っている。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 床面の東南隅から検出した。長径60cm、短径44cm、深さ28cmである。

遺物 覆土中から遺物の出土はほとんどなかった。

時期 不明。

備考 当住居跡は、23号住居跡よりも新しい。住居内土坑(床下土坑)から焼骨が出土している。

23号住居跡 (①第218図②第128図、PL.197・225)

位置 Ei・Ej-67・68グリッドにかけて検出した。

22号住居跡と重複している。

形状 現状では一辺約3.4mの方形を呈するものと思われる。

方位 N-141°-E

24号住居跡カマド A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり、黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土を多量を含む。
- 3 暗褐色土層 黄褐色土粒子、As-C・Br-FA、焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子を含む。

0 1:60 1m

覆土 地山を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は1層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約18cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約6.3m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東南隅に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。路線外に延びるために規模は不明である。

柱穴 ビット1個が検出された。長径42cm、短径36cm、深さ6cmである。

貯蔵穴 床面の南端、竈に接している。長径59cm、短径54cm、深さ14cmを測る。

遺物 覆土から遺物の出土はほとんどなかった。

時期 11世紀。

備考 当住居跡は22号住居跡によって壊されている。

24号住居跡 (①第219図②第128図、PL.197・225)

位置 Er-69グリッドにおいて検出した。20号住居跡の北約4mの所に位置している。

形状 現道下に延びているために完掘できなかった。現状では竈だけ検出した。

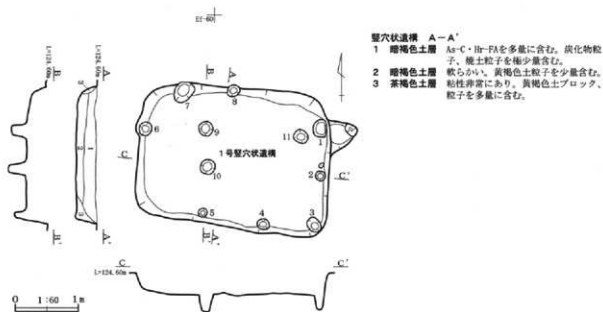
竈 燃焼部の大部分は壁を掘り込んで造られている。現状での規模は煙道方向74cm、両袖方向50cmである。

柱穴 不明。

遺物 竈から須恵器の坏が出土している。

時期 9世紀。

(2) 竪穴状遺構



第220図 1号竪穴状遺構

1号竪穴状遺構 (③第220図②第129図、PL.197-225)

位置 Ee・Ef-60グリッドにかけて検出した。1号住居跡の西約17mの所に位置している。

形状 長辺約3.1m、短辺約2.3mの方形を呈する。

覆土 地山を掘り込んで構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約25～35cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。面積は約6.3㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 東壁下に3個(ピット1～3)、南壁下に2個(ピット4・5)、北壁下に2個(ピット6・7)、西壁下に1個(ピット8)の計8個のピットと床面に3個

(ピット9～11)のピットを検出した。それぞれのピットの規模は次のようである。

ピット1-28×20cm、深さ5cm。ピット2-15×15cm、深さ25cm。ピット3-26×20cm、深さ28cm。ピット4-20×18cm、深さ20cm。ピット5-14×13cm、深さ18cm。ピット6-22×20cm、深さ16cm。ピット7-35×25cm、深さ16cm。ピット8-21×18cm、深さ12cm。ピット9-24×22cm、深さ26cm。ピット10-25×25cm、深さ27cm。ピット11-24×20cm、深さ9cm。ピット9と10がほぼ同規模で深さもある。

遺物 覆土から遺物の出土はほとんどなかった。

備考 6号住居跡と比べると規模こそ小さいものの構造はよく似ている。

(3) 土坑・井戸・ピット

土坑・井戸・ピット (①第221～234図②第129～135図、PL 198～211・225・226)

塚田中原遺跡からは87基の土坑を検出した。

これらの土坑は、その形状から円形を呈するもの27基、楕円形を呈するもの23基、長方形を呈するもの17基、その他に分けることができる。

遺物の出土している土坑は、12・17・20・23(中世)・24・25・27(中世)・33・41・47・56・79・82号の計13基の土坑である。47号土坑は須臾器の壺を埋設したものであり、79号土坑は近代のゴミ穴であ

る。17号土坑は火葬墓で、焼土・炭化物、そして骨片が多量に出土している。底面に石が配置されていた33・82号、覆土中から石が出土した41号、そして47号の各土坑は墓坑の可能性が考えられる。

1号堅穴状遺構の周りに、長方形の土坑(9～12号)と円形の土坑(13～15号)が分布している。

井戸を2基検出した。1・2号ともに深いために完掘することはできなかった。1号井戸の北西約6.5mの所に2号井戸が位置している。1号井戸は2号掘が完全に埋没した後に掘削されたものである。

ピットは総計102基を検出した。円形・楕円形を呈するものが主体である。

土坑一覧表

番号	位置	形状	長さ×短径×深さ(cm)	出土遺物	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
1	Eb-60	円形	61×58×6			第221図		PL 198
2	Eb-61	円形	79×76×6			221		198
3	Ea-61	不整形	144×106×21			221		198
4	Dt-Ea-61	長方形	138×66×21		21号ピットと重複	221		198
5	Eb-61	長方形	134×(96)×35			221		198
6	Eb-61	(長方形)	(183)×117×29		78号土坑と重複	222		198
7	Ea-Eb-61-62	不整形	155×132×11		6号土坑と重複	222		198
8	Eb-61-62	(方形か)	(96)×72×8		6号土坑と重複	222		198
9	Ee-59-60	楕丸長方形	165×96×45			221		198
10	Ee-59	楕丸長方形	147×106×32		1号掘と重複	222		198
11	Ee-59-60	楕丸長方形	93×62×85			222		198
12	Ef-59	楕丸長方形	150×87×110	石器類		222		198
13	Ef-Eg-59-60	ほぼ円形	140×125×8			222		199
14	Eg-60	円形	130×121×16			222		199
15	Ef-Eg-60-61	円形	114×107×87			222		199
16	Ea-62	円形	50×47×7			222		199
17	Dt-Ea-62	楕円形	102×86×15		44号ピットと重複	223		199
18	Ea-62-63	楕円形	69×58×5			223		199
19	Eb-63	楕円形	125×80×5			223		199
20	Eb-63	(楕丸長方形)	(99)×90×(13)			223		199
21	Ea-63	楕円形	81×51×31			222		199
22	Ea-62	長方形	134×88×20		27号土坑、28号ピットと重複	223		200
23	Ea-62-63	不整形	(156)×147×39	石器類		224	第129～131図	200, 225
24	Ea-Eb-63	円形か	216×(110)×88			223	132	200, 225
25	Ea-62	不整形	94×82×28			223	132	200, 225
26	Dt-62	楕円形	94×69×29			224		200
27	Ea-62	長方形	296×144×26			223	132	200, 225
28	Dt-63	(長方形か)	115×(55)×(28)			224		179
29	Dm-65	楕円形	115×56×32			224		177
30	Dr-63	円形か	82×(38)×45			224		200
31	Dr-63	ほぼ円形	148×145×31			224		201
32	Dq-63	ほぼ円形	85×77×18			224		201
33	Dq-63	ほぼ円形	104×96×24			224		201
34	Dp-63	円形か	111×97×25			224		201
35	Dp-64	不明	74×(37)×12			224		201
36	El-63	楕円形	48×43×22		37号土坑と重複	225		201
37	El-63	楕円形	144×73×15		36号土坑と重複	225		201
38	Em-63	円形	57×54×38			225		201
39	Em-62	ほぼ円形	70×61×29			225		202
40	Em-62	ほぼ円形	90×82×10			225		202
41	Ek-El-62	楕円形	103×70×27			225		202
42	Ek-62-63	長方形	171×63×12			225		202

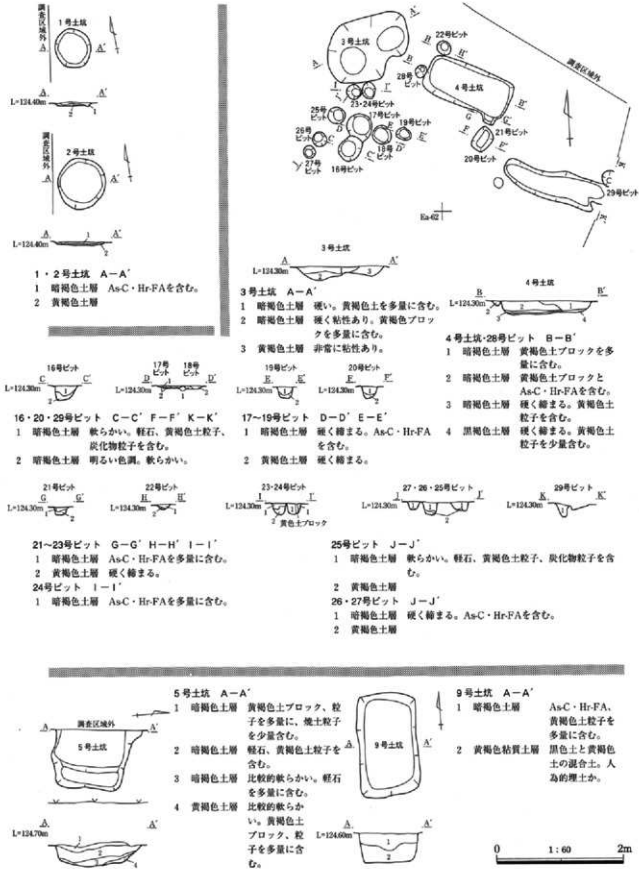
第4章 塚田中原遺跡

土坑一覽表

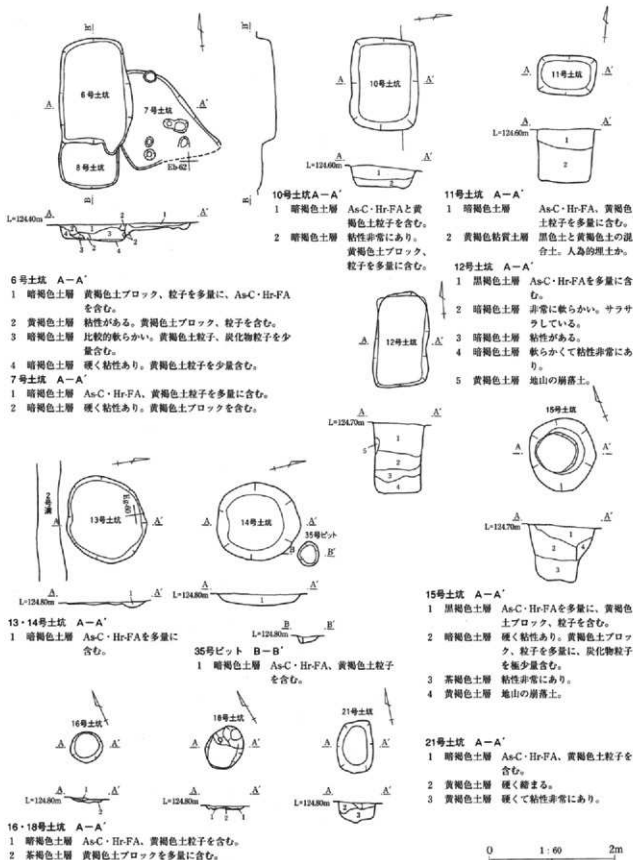
番号	位置	形状	長さ×幅×深さ(cm)	出土遺物	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
43	Ek-61	ほぼ円形	92×87×33			第225図		PL. 202
44	Ej-Ek-61	楕円形	123×60×12			225		202
45	Ej-61-62	ほぼ円形	62×56×52			225		202
46	Ei-62	(長方形)	(201)×75×27			225		202
47	Ei-63	ほぼ円形	71×67×22	土師器片・須恵器片		226	第132図	203, 225
48	Dq-Dr-63	楕円形	167×88×21		4号溝内	226		203
49	Ek-Ei-63	楕円形	61×48×32			226		203
50	Ek-63	楕円形	88×64×9			226		203
51	Ek-64	楕円形	106×82×17			226		203
52	Ei-63	楕円形	95×57×36			226		203
53	Ei-62-63	楕円形	152×118×18			226		203
54	Ek-63	ほぼ円形	64×58×29			226		203
55	Ek-63	楕円形	70×58×30			226		204
56	Ek-Ei-64	楕円形	111×86×25			226	133	204, 226
57	Ei-64	楕円形	65×47×29			227		204
58	Ek-63	楕円形	65×50×30			227		204
59	Ek-63	長方形	83×55×27			227		204
60	Ej-63	楕円形	109×66×18			227		204
61	Ek-64	長方形	98×67×16			227		204
62	Ej-Ek-63-64	ほぼ円形	78×71×12			227		204
63	Ej-63	楕円形	71×52×15			227		205
64	Em-63	円形	50×45×31			227		205
65	Ei-62-63	楕円形	75×58×20			227		205
66	Ei-62	円形	52×45×18			227		205
67	Ei-62	ほぼ円形	86×80×41			226		205
68	Em-63	楕円形	147×84×23			227		
69	Em-Ea67-68	楕円形	169×89×12			227		205
70	Em-68	不整形	95×83×5			227		205
71	Ek-68	円形	139×136×24			227		205
72	Ek-68	方形	60×41×16		73号土坑と重複	228		206
73	Ek-68	不整形	66×44×7		72号土坑と重複	228		206
74	Ek-67	方形	70×45×12		96,99号ピットと重複	228		206
75	Ej-67	長方形	257×58×14			228		206
76	Ei-66	円形	79×77×14			228		206
77	Ej-67	長方形	112×66×17		101号ピットと重複	228		206
78	Ej-66	楕円形	75×(55)×15			228		206
79	En-69-70	不明	265×(211)×49	土師器片・須恵器片・灰輪・軟質・磁器・瓦	16号住居, 2号堀と重複	229	133, 134	206, 226
80	Er-65	楕円形	123×102×19			228		206
81	Em-68	円形	90×83×12			228		207
82	Eg-64	楕円形	95×83×6			228		207
83	Ef-63	楕円形	86×47×12		6号住居と重複	228		
84	Ei-64	ほぼ円形	126×111×31			229		207
85	Eh-62	長方形	139×92×61			229		207
86	Ee-63	不明	(105)×107×80			229		
87	Ee-64	楕円形	134×121×127			229		207

井戸一覽表

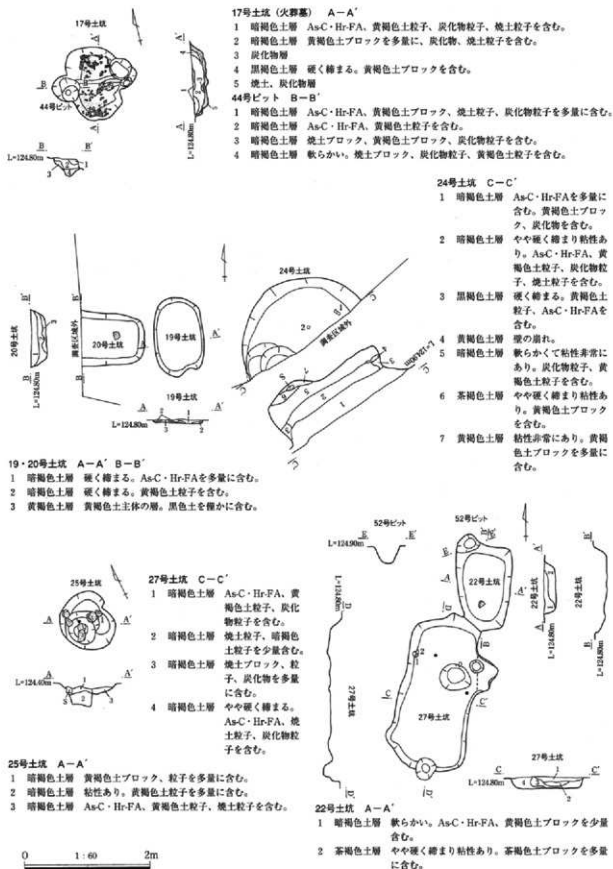
番号	位置	形状	長さ×幅×深さ(cm)	出土遺物	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
1	Ep-67	方形	155×150×133			第230図		207, 226
2	Eq-65-66	円形	265×232×(190)	土師器片・須恵器片・灰輪・瓦・石器・縄文		230	135	207, 226



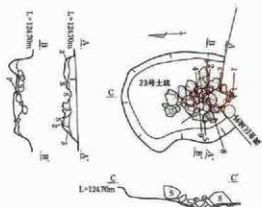
第221図 1～5・9号土坑、16～29号ピット



第222図 6～8・10～16・18・21号土坑、35号ピット

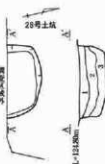


第223図 17・19・20・22・24・25・27号土坑、44・52号ピット



23号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 As・C・Hr-FA, 黄褐色土子を含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子を含む。
- 3 黄褐色土層 黄褐色土ブロックを多量に含む。

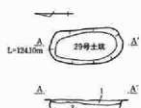


26号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや明るい色調。As・C・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 As・C・Hr-FA, 炭化物粒子を多量に含む。
- 3 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子を多量に含む。



51号ピット



29号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 As・C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 軽石を多量に含むサラサラしている。炭化物粒子, 焼土粒子を少量含む。
- 3 茶褐色土層 茶褐色ブロック, 軽石を含みサラサラしている。



30号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 As・C・Hr-FAを多量に, 炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軽石を含みサラサラしている。炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 黄褐色土粒子を多量に, 炭化物粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土層 粘性あり。黄褐色土ブロック, 焼土粒子を含む。

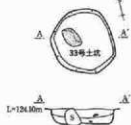


31号土坑

32号土坑

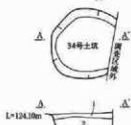
31号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子, 軽石を含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子, 炭化物粒子, 軽石を含む。
- 3 暗褐色土層 黄褐色土ブロック, 粒子を多量に含む。



33号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 As・C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 As・C・Hr-FAを含まない。

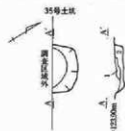


34号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 軽石と炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軽石を多量に, 炭化物粒子を含む。

32号土坑 B-B'

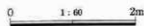
- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子, 軽石を含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子, 炭化物粒子, 軽石を含む。

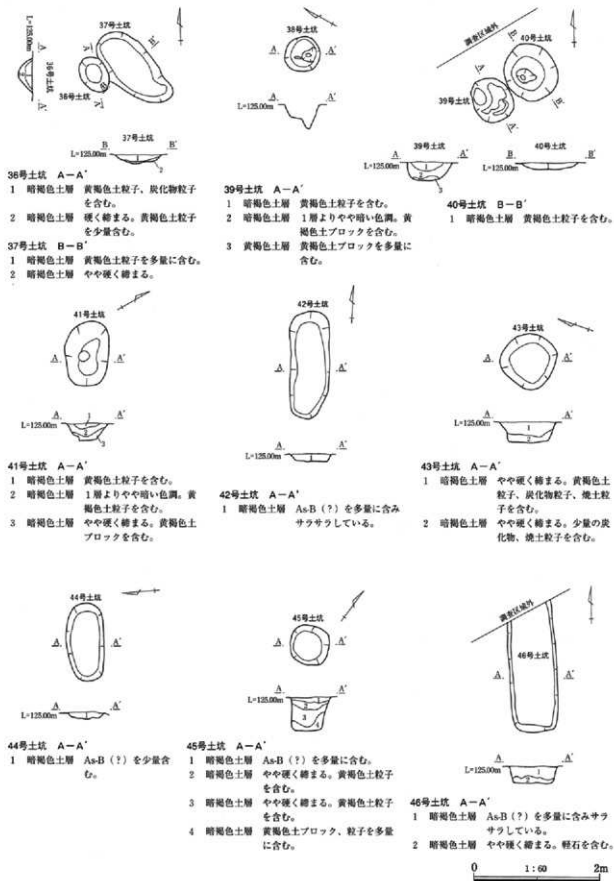


35号土坑 A-A'

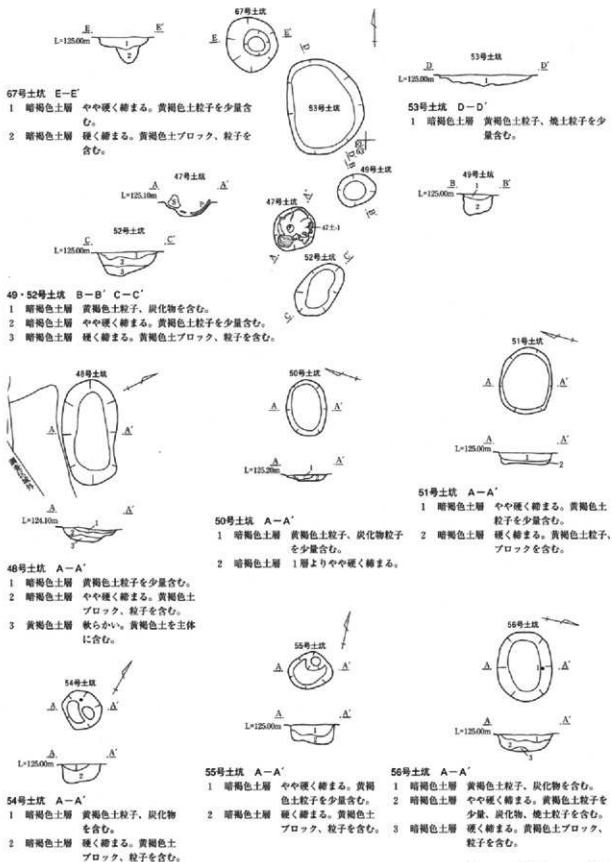
- 1 黒色土層 黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 締まりよい。

第224図 23・26・28～35号土坑, 51号ピット



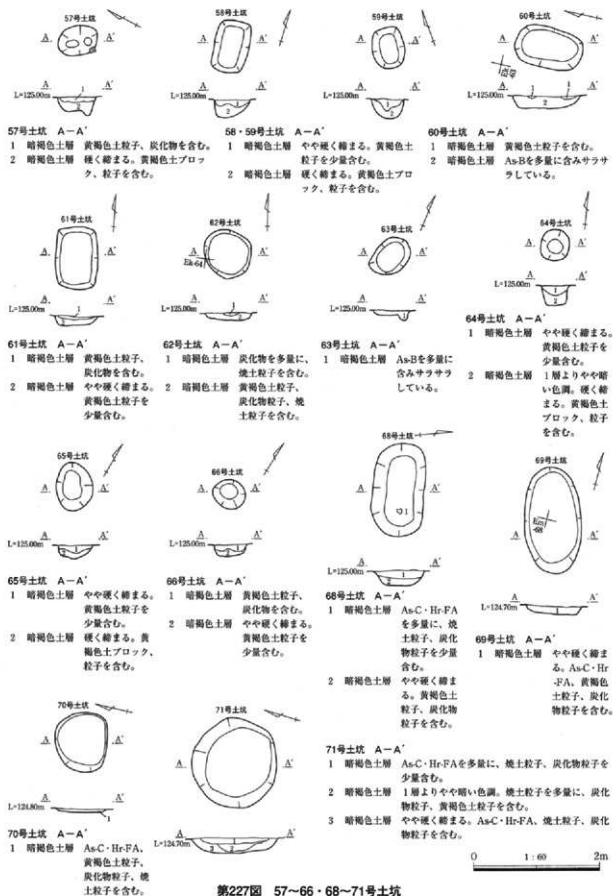


第225図 36~46号土坑



第226図 47~56・67号土坑

(3) 土坑・井戸・ピット



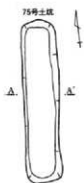
第227図 57~66・68~71号土坑

第4章 塚田中原遺跡



72・73号土坑 A-A' B-B'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子、AsC・Hr-FAを少量含む。



75号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子を含む。



78号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子と少量の焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子を少量含む。

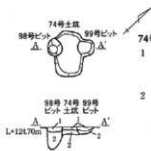
102号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 サラサラしている。軽石、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。



82号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 灰を多量に、AsC・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。炭化物粒子、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 3 赤褐色土層 燧土主体の層。



74号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

2 暗褐色土層

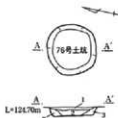
- 1層よりやや暗い色調。焼土粒子を多量に、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。

98号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子を含む。

99号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子、AsC・Hr-FAを少量含む。

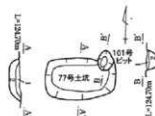


76・77号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

- 2 暗褐色土層 1層よりやや暗い色調。焼土粒子を多量に、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。

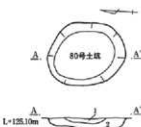
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。AsC・Hr-FA、焼土粒子、炭化物粒子を含む。



101号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。

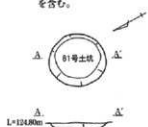
- 2 暗褐色土層 サラサラしている。軽石、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。



80号土坑 A-A'

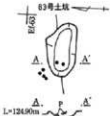
- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、炭化物粒子、焼土粒子を含む。

- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。



81号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。

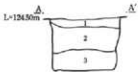


第228図 72~78・80~83号土坑、98・99・101・102号ピット



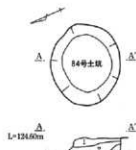
79号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 少量のAs-C・Hr-FA、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。多量の遺物を含む。
- 2 暗褐色土層 粘性あり。炭化物を含む。
- 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。
- 4 灰褐色土層 3層よりやや暗い。粘性あり。
- 5 暗褐色土層 軟らかい。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 6 茶褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色ブロックを多量に、焼土粒子、炭化物粒子、白色粒子を含む。



84号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。



85号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子を多量に含む。
- 3 黄褐色土層 粘性あり。黄褐色土と暗褐色土の混土。



86号土坑 A-A'

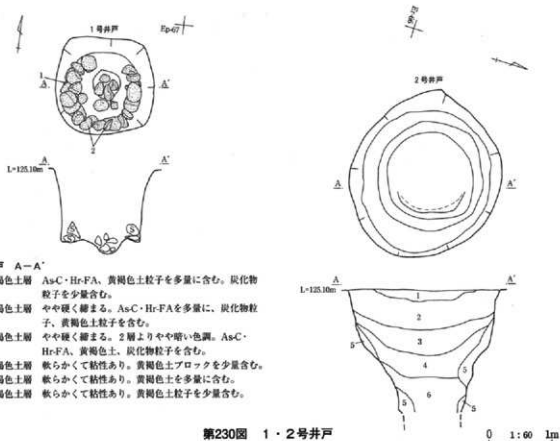
- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に、炭化物を少量含む。



87号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を多量に、炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に、炭化物、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。

0 1:60 2m



2号井戸 A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子を多量に含む。炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。AsC・Hr-FAを多量に、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。2層よりやや暗い色調。AsC・Hr-FA、黄褐色土、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土アロックスを少量含む。
- 5 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土を多量に含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。

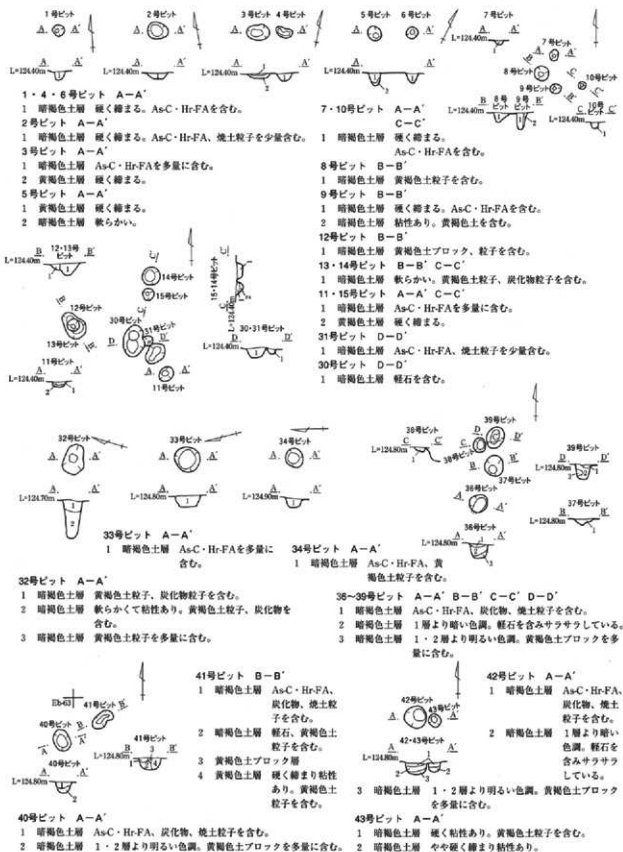
第230図 1・2号井戸

ビット一覧表

番号	位置	形状	長さ×幅×深さ(cm)	出土遺物	備考	透視図版	遺物図版	写真図版
1	Eb-61	円形	19×17×13			第231図		PL.208
2	Eb-61	楕円形	32×26×10			231		208
3	Eb-61	楕円形	35×26×7			231		208
4	Eb-61	楕円形	26×14×13			231		208
5	Eb-61	円形	22×21×21			231		208
6	Eb-61	円形	18×18×15			231		208
7	Eb-61	楕円形	18×13×6			231		198
8	Eb-61	円形	24×23×16			231		198
9	Eb-61・62	円形	17×16×26			231		198
10	Eb-61	円形	12×11×10			231		198
11	Ea-61	楕円形	25×20×10			231		208
12	Ea-61	不明	22×(14)×8		13号ビットと重複	231		208
13	Ea-61	(円形)	34×(31)×16		12号ビットと重複	231		208
14	Ea-61	ほぼ円形	26×27×10			231		208
15	Ea-61	ほぼ円形	20×19×11			231		208
16	Ea-61	(円形)	36×35×22		17号ビットと重複	221		198
17	Ea-61	(円形)	44×40×3		16号ビットと重複	221		198
18	Ea-61	(円形)	31×31×5			221		198
19	Ea-61	楕円形	23×18×19			221		198
20	Dt-61	隅丸長方形	37×27×19			221		198
21	Dt-61	不明	20×17×13			221		198
22	Dt-61	円形	24×21×7			221		198
23	Ea-61	円形	23×23×18			221		198
24	Ea-61	楕円形	25×21×17			221		198
25	Ea-61	円形	26×26×13			221		198
26	Ea-61	円形	23×23×19			221		198
27	Ea-61	円形	19×18×13			221		198
28	Ea-61	楕円形	20×16×6			221		198
29	Dt-61	(楕円形)	26×(16)×21			221		
30	Ea-61	楕円形	48×33×15		31号ビットと重複	231		208
31	Ea-61	(円形)	16×16×9		30号ビットと重複	231		208
32	Ef-60	楕円形	49×33×60			231		197
33	Eg-60	円形	40×40×19			231		208

ピット一覧表

番号	位置	形状	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物	備考	遺構図層	遺物図層	写真図層
34	Eg-59	円形	28×27×14			第231図		PL208
35	Eg-60	楕円形	39×31×11				222	199
36	Ea-62	円形	29×27×23				221	208
37	Ea-62	円形	32×31×10				221	208
38	Ea-62	楕円形	22×18×6				221	208
39	Ea-62	楕円形	47×26×22				221	208
40	Eb-63	楕円形	35×25×17				221	208
41	Ea-63	不整形	35×30×19				221	208
42	Ea-62	ほぼ円形	35×35×17				221	199
43	Ea-62	円形	21×20×15				221	199
44	Ea-62	円形	43×41×26		17号土坑と重複		223	199
45	Ea-62	楕丸長方形	52×35×41				232	199
46	Ea-62	不整形	55×50×23				232	208
47	Ea-62	円形	39×39×26				232	208
48	Dt-62	円形	21×20×45				232	208
49	Ea-62	円形	23×21×4				232	199
50	Eb-62	不整形	45×45×22				232	208
51	Dt-62	円形	34×32×21		26号土坑と重複		224	200
52	Ea-61-62	楕円形	34×26×27				223	200
53	Dr-De-63	楕円形	36×20×12				232	208
54	Ds-63	楕円形	54×40×8				232	208
55	Ds-63	楕丸方形	42×41×32				232	208
56	Dr-63	楕円形	31×25×10				232	
57	Dq-63	不整形	45×27×19				232	208
58	Dl-66	円形	30×29×9				232	208
59	El-63	円形	32×30×12				232	208
60	Ej-63	楕円形	40×34×13				232	209
61	El-63	円形	28×26×21				232	209
62	Em-63	円形	45×42×30				232	209
63	Ek-62	楕円形	29×26×21				232	209
64	Ek-61-62	円形	43×42×13				232	209
65	Ek-61	楕円形	43×32×37				232	209
66	Ek-61	円形	26×26×19				232	209
67	Ek-62	楕円形	56×41×48				232	209
68	Ej-61	円形	28×26×39				232	209
69	Ej-61	楕円形	44×34×27				233	209
70	El-63	楕円形	38×31×15				233	209
71	El-63	円形	41×39×30				233	209
72	El-63	楕円形	38×31×21				233	209
73	El-Em-62	円形	55×53×41				233	209
74	El-63	楕円形	35×30×15				233	209
75	El-62	円形	30×30×15				233	210
76	Ek-63	楕円形	58×47×41				233	210
77	Ek-63	円形	32×30×21				233	210
78	Ek-63	楕円形	49×41×27				233	210
79	Ek-63	円形	42×41×19				233	210
80	Ek-63	楕円形	45×33×16				233	210
81	Ek-63	楕円形	45×39×27				233	210
82	Ek-64	円形	48×45×27				233	210
83	Ej-63	楕円形	55×47×11				233	210
84	Ek-62	ほぼ円形	35×32×21				233	210
85	Ej-Ek-62	不整形	71×54×17				233	210
86	El-68	楕円形	39×27×38				233	210
87	Ek-67	円形	28×28×39				233	210
88	Ek-67	円形	28×26×14				233	210
89	Ek-67	円形	41×40×13				233	210
90	Ek-66	ほぼ円形	37×34×13				233	210
91	Ek-66	楕円形	43×36×9				233	211
92	Ek-66	ほぼ円形	33×27×7				234	211
93	Ek-67	ほぼ円形	42×37×13				234	211
94	Ek-66	ほぼ円形	27×21×22				234	211
95	Ej-Ek-66	ほぼ円形	30×28×8				234	211
96	Ej-Ek-66	楕円形	54×40×12				234	211
97	Ek-67	円形	25×24×12				234	211
98	Ek-67	ほぼ円形	25×24×35		74号土坑と重複		228	206
99	Ek-67	ほぼ円形	26×25×11		74号土坑と重複		228	206
100	El-65	ほぼ円形	29×28×8				234	211
101	El-67	楕円形	33×25×16		77号土坑と重複		228	206
102	Ej-66	円形	33×31×23				228	206



第231図 1~15・30~34・36~43号ピット



45号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA, 黄褐色土粒子, 焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 1層より明るい色調, 粘性あり, 黄褐色土粒子, 焼土粒子を少量含む。

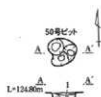
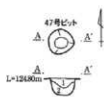
49号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA, 炭化物, 焼土粒子を含む。



46~48号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA, 炭化物, 焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層より暗い色調, 軽石を含みサツサツしている。



50号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA, 炭化物粒子, 焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層 軟らかく締まっている。焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかい。黄褐色粒子を含む。



56号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 炭化物, 黄褐色土粒子を含む。



53・54号ピット A-A' B-B'

- 1 茶褐色土層 茶褐色土ブロック, 焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。

55号ピット C-C'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土ブロック, 焼土粒子, 軽石を含む。
- 2 暗褐色土層 軽石を含みサツサツしている。



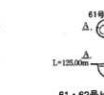
57号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 軽石を多量に, 炭化物粒子を少量含む。



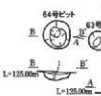
59・60号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを含まない。



61・62号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを含まない。
- 3 茶褐色土層 茶褐色土ブロック, 粒子を多量に含む。



63号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 AsB(?)を多量に含む。

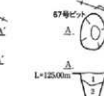
64号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを含まない。



65・66号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 AsB(?)を多量に含む。
- 3 暗褐色土層 黄褐色土ブロック, 軽石を含む。



67号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを含まない。
- 3 茶褐色土層 茶褐色土ブロック, 粒子を多量に含む。



68号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 AsB(?)を多量に含む。
- 3 暗褐色土層 黄褐色土ブロック, 軽石を含む。

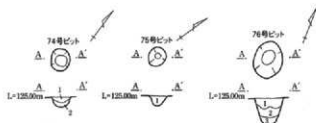


69号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 AsB(?)を多量に含む。
- 3 暗褐色土層 黄褐色土ブロック、軽石を含む。

70～73号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。1層よりやや暗い色調。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土層 硬く締まる。黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土層 黄褐色土粒子を極少量含む。



74号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子、焼土粒子、炭化物を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。1層よりやや暗い色調。黄褐色土ブロックを少量含む。

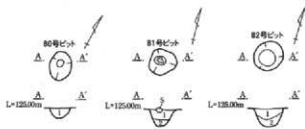
75・76・79号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。1層よりやや暗い色調。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土層 硬く締まる。黄褐色土ブロックを多量に含む。



77・78号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 明るい色調。黄褐色土粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。1層よりやや暗い色調。黄褐色土ブロックを少量含む。

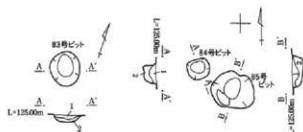


80・82号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。1層よりやや暗い色調。黄褐色土ブロックを少量含む。

81号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物を含む。



83号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を少量含む。

84・85号ピット A-A' B-B'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 1層よりより暗い色調。黄褐色土粒子を少量含む。



86・87号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。

88・89号ピット A-A' B-B'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。

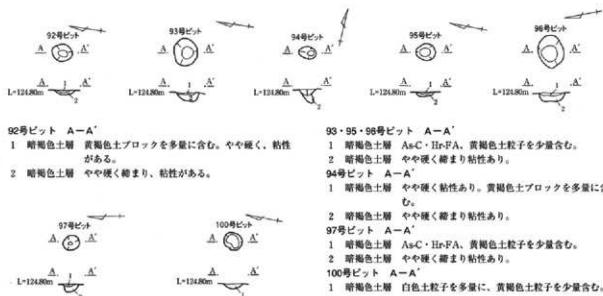
90・91号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 AsC・Hr-FA、黄褐色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
- 3 黄褐色土層 礫の層。

0 1:60 1m

第233図 69～91号ピット

(3) 土坑・井戸・ピット



第234図 92～97・100号ピット

(4) 溝

溝 ①第235～237図②第135図、PL.212・226

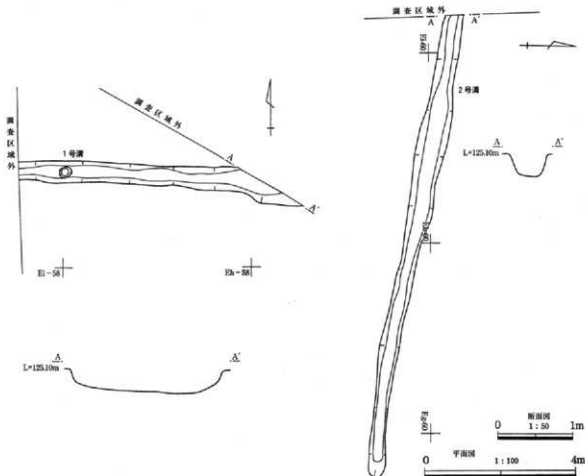
溝7条を検出した。

1号溝は調査区の北端から、幅45～65cm、深さ30cm、長さ6.4mにわたって検出した。遺物の出土はなかった。2号溝は1号溝の南約11mの所に位置している。幅32～78cm、深さ28cm、長さ12.4mにわたって検出した。遺物の出土はなかった。1・2号溝ともにほぼ東西走向であった。3号溝は幅40～65cm、深さ15cm、長さ19.8mにわたって検出した。南東から北西走向である。4号溝は3号溝の西8m、3号

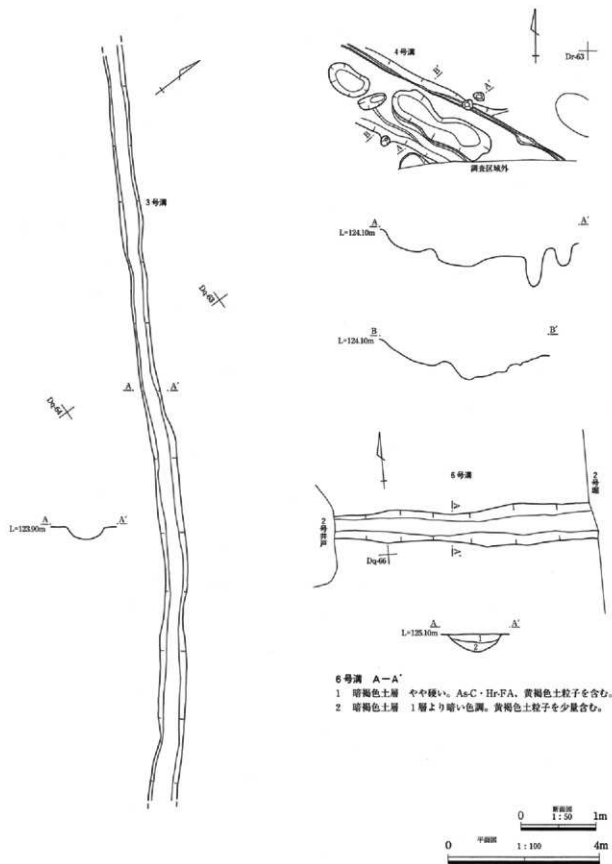
溝に併行するように走向しているが、一部を検出したにとどまった。5号溝は幅40～120cm、深さ9～20cm、長さ32.3mにわたって検出した。2号堀に併行する南北走向の溝である。6・7号溝は併行する東西走向の溝である。6号溝は幅60～110cm、深さ22cm、長さ6.8mにわたって検出した。2号井戸に接続している。7号溝は幅36～114cm、深さ35cm、長さ14.8mにわたって検出した。2号堀が完全に埋没した後に掘削され、また覆土からガラス瓶(②第135図1)が出土していることから、比較的新しい溝と思われる。

溝一覧表

番号	位置	長さ×幅×深さ (m)	出土遺物	備考	透視図版	遺物図版	写真図版
1	Ef-Eh57-Ei57	6.4×0.45～0.65×0.3			第235図		
2	Ef40-Ei59	12.4×0.32～0.78×0.28			235		
3	Do64-Dr63	19.8×0.4～0.65×0.15	土師器片・須恵器片・瓦		236		PL・212
4	Dr63-De62-63	5.5×1.75×0.1～0.75	土師器片・須恵器片・灰軸・石器		236		212
5	En63-Dn69	32.3×0.4～1.2×0.09～0.2	土師器片・須恵器片・瓦		237		212
6	Eo65-Eq65	6.8×0.6～1.1×0.22	土師器片・須恵器片・灰軸・瓦・陶器・石器・縄文・その他		236		212
7	Eo66-Er66	14.8×0.36～1.14×0.35	土師器片・須恵器片・灰軸・瓦		237	第135図	212,226



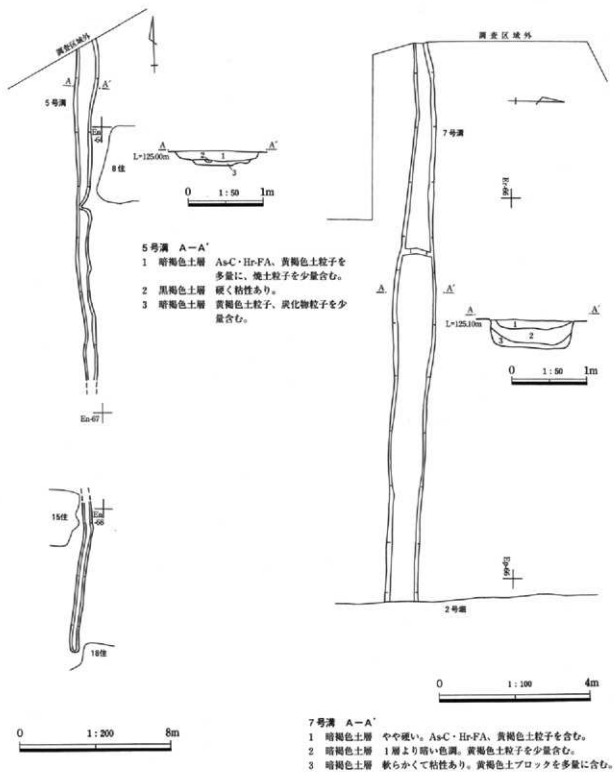
第235図 1・2号溝



6号溝 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬い。As・C・Hr・FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層より暗い色調。黄褐色土粒子を少量含む。

第236図 3・4・6号溝



第237図 5・7号溝

(5) 堀

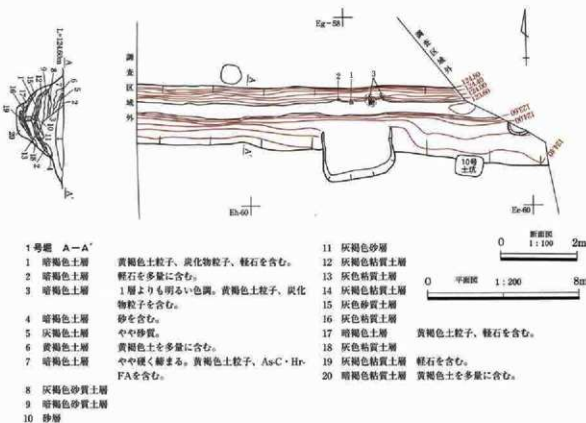
堀 ①第238-239図2第135～137図、PL.213・226・227

1号堀は幅3.08～3.6m、深さ1.25m、長さ21.6mにわたって検出することができた。東西走向の堀である。覆土から須恵器の坏(②第135図1・2)と壺(②第135図3)が出土している。掘削時期は平安時代と思われる。

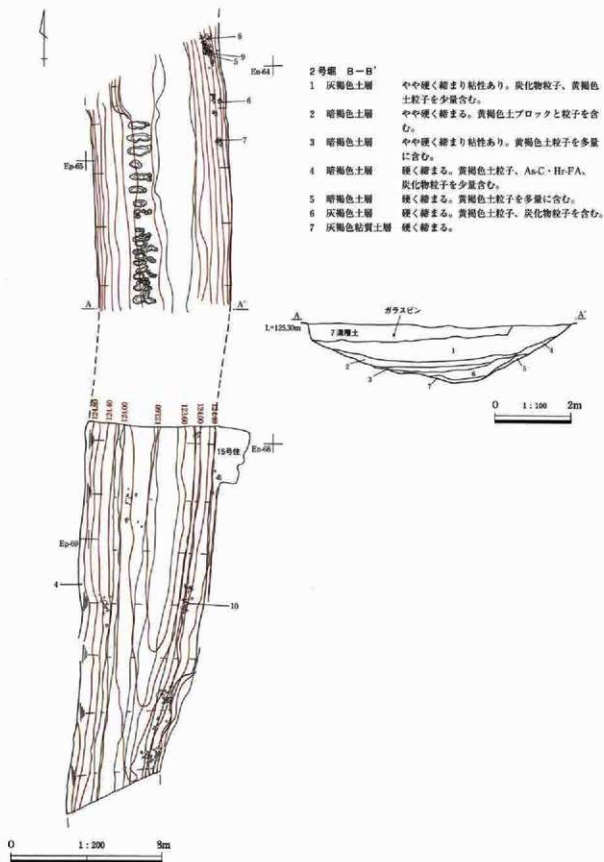
2号堀は幅4.72～7.28m、深さ1.48m、長さ38.7mにわたって検出することができた。南北走向の堀である。覆土からの出土遺物はごく少量であり、掘削時期を特定することはできないが、埋没時期は中世に属する可能性が高い。この2号堀は塚田中原遺跡0区検出の18号溝(「塚田村東IV遺跡・塚田中原遺跡(0区)・引間松葉遺跡(Ⅲ区)」2005年3月発行)と同一の遺構と思われる。覆土から馬骨2点が出土した。

堀一覧表

番号	位置	長さ×幅×深さ(m)	出土遺物	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
1	Ee-58-59～ E5-58-59	21.6×3.08～3.6×1.25	土師器片・須恵器片・灰釉・瓦・石器・縄文・その他		第238図	第135図	PL.213.226
2	Ee-63・Eo-64～ Eo-Ep-71	38.7×4.72～7.28×1.48	土師器片・須恵器片・灰釉・陶器・瓦・石器・弥生・その他		239	135～137	213.226.227

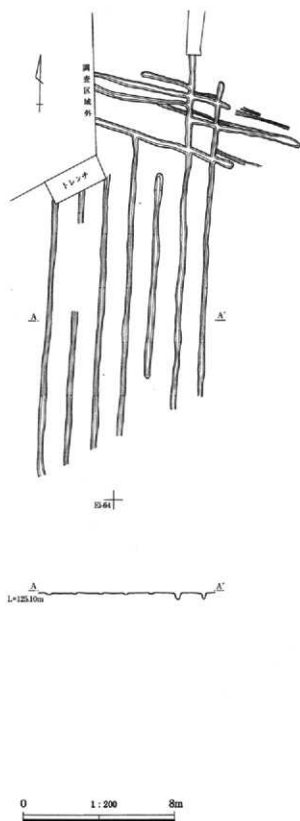


第238図 1号堀



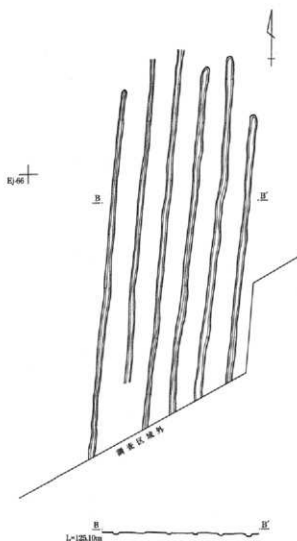
第239図 2号堀

(6) 耕作溝



耕作痕 (①第240図)

発掘区の2ヶ所で検出した。北側の耕作痕は、北西～南東走向 (Eg-59～Ei-59グリッド) とほぼ南北走向 (Eg-59～Ei-63グリッド) の溝である。南側の耕作痕は、北北東～南南西走向 (Eg-64～Ei-69グリッド) である。北側のほぼ南北走向の溝と同一のものと思われる。いずれも比較的新しい耕作痕と考えられる。



第240図 耕作痕

結

一般県道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成11(1999)年11月から始まり同15(2003)年10月31日をもって終了した。この間、調査した遺跡は、東から順に、元総社西川遺跡・塚田中原遺跡、塚田中原遺跡（0区、Ⅰ～Ⅲ区）・塚田村東Ⅳ遺跡・塚田的場遺跡・引間松葉遺跡（Ⅰ・Ⅱ区、Ⅲ区）・引間六石遺跡、棟高辻久保遺跡（0～Ⅶ区）の計7遺跡に及んだ。

報告書の刊行は、平成15(2003)年11月に第1集「元総社西川・塚田中原遺跡」、同17年3月に第2集「塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡（0区）・引間松葉遺跡（Ⅲ区）」、同18年3月に第3集「棟高辻久保遺跡」と続き、そして第4集が本書にあたる。これをもって発掘した遺跡の整理作業、報告書刊行作業が終了した。4冊に及ぶ報告書は、A4版で総計約3300頁にもなった。

ここではごく簡単に本書掲載の4遺跡についてまとめたいと思うが、考察については、当事業団刊行の「研究紀要」に順次発表していく所存である。

1. 引間六石遺跡

棟高辻久保遺跡0区の東に接している。調査面積は5089.1㎡である。陸軍前橋飛行場の跡地からははずれている。検出された遺構は、堅穴住居跡54軒、堅穴状遺構2軒、土坑117基、ピット179基、溝36条である。この他に畠跡、遺跡なども検出した。

堅穴住居跡は8世紀前半から10世紀にかけてのものであり、その主体となる時期は9世紀後半である。重複関係が激しいために時期不明の住居跡もある。

土坑117基のうち遺物の出土（遺構に伴う）している土坑は17基である。このために大多数の土坑の時期は不明であるが、中世以降に属するものと思われる。ピットについても同様である。

溝には9世紀代や中世の堀、そして近世や近代に属するものも含まれている。

2. 引間松葉遺跡

引間六石遺跡と道路を挟んだ東側、塚田的場遺跡の北側に位置している。プレハブ事務所建設のため

に先行調査した地区をⅠ区、残りをⅡ区として調査した。調査面積は8,746.7㎡である。引間松葉遺跡（Ⅲ区）は、現県道足門前橋線の拡幅部分にあたる。

Ⅰ・Ⅱ区から検出された遺構は、堅穴住居跡27軒、掘立柱建物跡2棟、堅穴状遺構5軒、土坑382基、ピット414基、溝33条、畠跡などである。

堅穴住居跡は7世紀後半から11世紀に及ぶが、その主体となる時期は10世紀代である。その分布は調査区の西から中央部にかけては検出されず、東部から検出されている。塚田中原遺跡（Ⅰ～Ⅲ区）に連なる住居跡群となる。遺跡中央部からは土坑やピット多数、畠跡が検出されている。

また前橋飛行場に関連する対空機関銃座と、その周辺から兵士が飯盒炊飯をした場所も発掘されている。

3. 塚田的場遺跡

引間松葉遺跡とは道路を挟んで南側の地区になる。引間松葉遺跡とは一体の遺跡である。調査面積は2,127.5㎡であり、検出された遺構は堅穴住居跡5軒、建物跡1棟、土坑36基、ピット88基、溝6条、畠跡などである。堅穴住居跡は8世紀後半から9世紀前半にかけてのものであった。また、2号溝の覆土からは、高台内に生産者別標示記号のある碗をはじめ近代遺物がまぎらって出土している。

4. 塚田中原遺跡

遺跡は、県道足門前橋線の北側調査区、その南側調査区、そして現道の拡幅調査区に及んでいる。このために、南側調査区を塚田中原遺跡Ⅰ区～Ⅲ区として、また現道の拡幅調査区を0区として調査にあたった。あくまでも便宜的な処置である。

本報告ではⅠ区～Ⅲ区まで、調査面積は3,575.5㎡である。検出された遺構は、堅穴住居跡24軒、堅穴状遺構1軒、土坑87基、ピット102基、井戸2基、溝7条などである。堅穴住居跡は9世紀後半から11世紀にかけてのものであるが、その主体となる時期は、9世紀後半から10世紀前半である。7・11・14・20号住居跡からややまとまって瓦が出土しているが、これらは上野国分僧寺の瓦を再利用したものである。

第5章

自然科学分析

(1) 引間松葉遺跡・塚田中原遺跡出土人骨

檜崎 修一郎

はじめに

引間松葉遺跡及び塚田中原遺跡は、群馬県高崎市引間町及び塚田町に所在する。発掘調査時は、群馬県群馬郡群馬町大字引間字松葉及び大字塚田字中原の住所であった。西毛広域幹線建設に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成13(2001)年～同15(2003)年にかけて行われた。

引間松葉遺跡の127号土坑・228号土坑及び塚田中原遺跡の22号住居より、人骨が出土したので以下に報告する。

1. 引間松葉遺跡出土人骨

(1) 127号土坑 [2002年12月10日出土]

①人骨の出土状況

人骨は、長径約2.5m・短径約1.2mの隅丸長方形土坑より出土している。

②人骨の出土部位

人骨の保存状態は非常に悪く、わずかな頭蓋骨片及び遊離歯が1本出土している。

③被葬者の頭位・埋葬状態

頭蓋骨片及び歯の出土位置から、被葬者の頭位は北であると推定される。顔面部がどの方位を向いていたかは不明であるが、骨がうっすらと残っていた状態が周囲に残されており、恐らく東側を向いていたと推定される。埋葬状態は、土坑の長径が約2.5mもあることから伸展葬であったと推定される。また、釘も2点出土していることから、棺で埋葬したと推定される。

④被葬者の個体数

遊離歯1本しか出土していないので、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

出土遊離歯の計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出するマルティンの2度の状態であるので、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(2) 228号土坑 [2003年7月29日出土]

①人骨の出土状況

人骨は、長径約1.75m・短径約1.2mの隅丸長方形土坑から出土している。

②人骨の出土部位

人骨は、比較的保存状態が良く、ほぼ全身骨格が出土して

いる。

③被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の出土位置から、被葬者の頭位は北側で、顔面部を東側に向けた横(側)臥屈葬で埋葬されたと推定される。

④被葬者の個体数

出土人骨には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓の発達が悪く、眼窩縁も薄く女性的である。ところが、出土歯の計測値が比較的大きく男性的である。しかしながら、四肢骨も著者で小さいため、総合的に被葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合の3縫合の癒合度を観察すると、内板及び外板共に癒合していない状態である。また、歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出するマルティンの2度の状態である。したがって、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

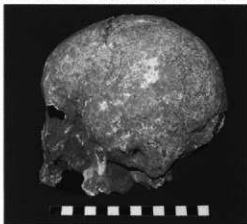


写真1. 引間松葉遺跡228号土坑出土人骨頭蓋骨(左側面観)

2. 塚田中原遺跡出土人骨

(1) 22号住居

人骨は、22号住居の床下土坑から、炭化及び焼土粒子に混じって出土している。人骨は、焼骨であり、約5mm～10mmの大きさに細片化している。したがって、被葬者の個体数・性別・死亡年齢等は不明である。

まとめ

引間松葉遺跡の127号土坑から、約30歳代の女性人骨が1体・228号土坑から、約30歳代の女性人骨が1体出土した。また、塚田中原遺跡の22号住居から、性別・死亡年齢不明の大人人骨が出土した。

(2) 引間六石遺跡・引間松葉遺跡・塚田の場遺跡・塚田中原遺跡出土獣骨

植崎 修一郎

はじめに

引間六石遺跡・引間松葉遺跡・塚田の場遺跡・塚田中原遺跡は、群馬県高崎市引間町及び塚田町に所在する。発掘調査時は、それぞれ、群馬県群馬郡群馬大字引間六石・同大字引間松葉・同大字塚田の場・同大字塚田中原の住所跡であった。

西毛広域幹線建設に伴う発掘調査が、(財)群馬県歴史文化財調査事業団により平成13(2001)年～同15(2003)年にかけて行われた。これらの4遺跡より、馬(ウマ) [*Equus caballus*] を中心として、その他犬(イヌ) [*Canis familiaris*] や猪(イノシシ) [*Sus scrofa leucomystax*] か豚(ブタ) [*Sus scrofa domestica*] の獣骨が出土したので以下に報告する。

獣骨は、清掃後、可能な限り接着復元を行い、観察・計測・写真撮影を行った。なお、獣骨の計測は、基本的にドリルシユの方法(von den DRIESCH, 1976)に従った。また、獣骨の出土部位は、加藤(1993)、久保・松井(1999)、榎野(1986)、Young(1981)を用いた。

馬の年齢区分は、市井(1943)に従い、1歳～5歳を幼駒馬・6歳～16歳を牡駒馬・17歳以上を老駒馬として分類した。また、馬の体高は、林田(1978)に従い、小型馬は105cm～122cm・中型馬は129cm～138cmとして分類した。

報告は遺跡毎とし、調査区の西側から引間六石遺跡・引間松葉遺跡・塚田の場遺跡・塚田中原遺跡の順とする。

1. 引間六石遺跡

引間六石遺跡では、住居(10号・15号・23号・38号・51号)・土坑(15号)・溝(3号・4号・5号・8号・10号・27号・34号・48号)・グリッド(Ih-81・Ii-78・It-78)から獣骨が出土している。しかしながら、住居出土獣骨は主に馬(ウマ)の歯が出土しているが、すべて破片であるため、歯種や部位同定も不可能である。

また、8号溝出土馬歯及びグリッド出土馬歯も破片であるため、記載することはできない。以下に、15号土坑・3号溝・4号溝・5号溝・10号溝・27号溝・34号溝・48号溝出土獣骨について記載する。

(1) 15号土坑

15号土坑から、馬(ウマ)の馬骨・馬歯及び犬(イヌ)の上下歯骨が出土している。以下に、馬(ウマ)と犬(イヌ)に分けて報告する。15号土坑の大きさは不明であるが、馬の歯と骨・犬の歯及び牡蠣の殻が出土しており、土坑の性質はゴミ穴的である。

①馬(ウマ)

馬(ウマ)の右下顎骨片・上顎右臼歯片・下顎右P3(第3小白歯)が出土している。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より約14歳の牡駒馬であると推定される。なお、本下顎骨の下縁部に、径約12mm～14mmの骨瘤が認められた。恐らく、顎を強く打った際にできたものと推定される。



写真1. 引間六石遺跡15号土坑出土馬骨・馬歯(上2段, 右下顎骨; 下段, 下顎右P3)

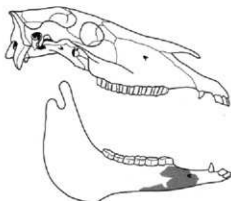


図1. 引間六石遺跡15号土坑出土馬右下顎骨出土部位図



図2. 引間六石遺跡15号土坑出土馬右下顎骨古病理(骨瘤)

②犬(イヌ)

犬(イヌ)の上下顎遊離歯が出土している。犬(イヌ)の遊離歯の歯冠計測値を比較すると、現生柴犬及び中世犬よりも比較的大きいため、性別は雄(♂)であると推定される。

出土遊離歯には、乳歯は認められず、すべて永久歯である。犬は、約4ヶ月～7ヶ月で永久歯が萌出して乳歯は脱落することが知られている。大白歯の脱臼度を観察すると、上顎左I3(第3切歯)・同M2(第2大白歯)・下顎左右I3・同左M1(第1大白歯)は、象牙質が線状あるいは点状に露出している状態である。死亡年齢は成体であると推定されるが、確かな死亡年齢は不明である。

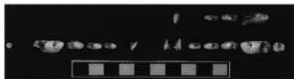


写真2. 引間六石遺跡15号土坑出土犬(イヌ)の上下顎歯

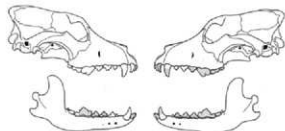


図3. 引間六石遺跡15号土坑出土犬遊離歯出土部位図

表1. 引間六石遺跡15号土坑出土犬上下顎歯の計測値

歯種	計測項目	引間六石15号土坑		現生柴犬		中世犬		異文種別異歯		
		♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
上顎	3(第3切歯)	MD	-	44						
		BL	-	42						
	C(犬歯)	MD	-	破損						
		BL	-	破損						
	P3(第3小臼歯)	MD	-	57						
		BL	-	57						
	P4(第4小臼歯)	MD	-	109						
		BL	-	45						
	M1(第1大白歯)	MD	-	180						
		BL	-	93						
M2(第2大白歯)	MD	-	91							
	BL	-	65							
下顎	I3(第3切歯)	MD	43	47						
		BL	45	45						
	P2(第2小臼歯)	MD	81	82	75	66	71	62	7	66
		BL	49	46	41	36	39	33	58	35
	P3(第3小臼歯)	MD	96	59	93	82	93	83	87	84
		BL	45	46	48	43	46	4	41	39
	P4(第4小臼歯)	MD	109	108	268	89	107	92	102	97
		BL	58	57	59	53	57	48	53	48
	M1(第1大白歯)	MD	破損	202	186	174	187	178	193	185
		BL	83	84	77	71	82	75	79	75
M2(第2大白歯)	MD	-	78	74	69	83	7	78	81	
	BL	-	64	59	55	65	55	62	62	
M3(第3大白歯)	MD	39	-	38	36	37	34	38	37	
	BL	34	-	35	32	33	32	35	35	

注1. 計測値の単位は、すべて(mm)。

(2) 3号溝

3号溝から、馬歯の遊離歯が出土している。上下顎切歯破片・上顎左M3(第3大白歯)・下顎右M3(第3大白歯)である。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より約7歳の牡駒馬であると推定される。

(3) 4号溝

4号溝から、馬歯の遊離歯が5本出土している。下顎右M3(第3大白歯)と下顎左P2(第2小臼歯)・同M1(第1大白歯)である。馬歯の色調及び、死亡年齢が同じであることから、同一個体であると推定される。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より約8歳の牡駒馬であると推定される。

(4) 5号溝

5号溝から、馬歯の上下顎遊離歯が2つにわけて8本出土している。上顎右P3(第3小臼歯)と同左M1(第1大白歯)・M3(第3大白歯)及び下顎右P3(第3小臼歯)・M2(第2大白歯)である。馬歯の色調及び、死亡年齢が同じであることから、同一個体であると推定される。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より約10歳の牡駒馬であると推定される。

(5) 10号溝

10号溝から、馬歯の上顎遊離歯が8本出土している。上顎右P3(第3小臼歯)・M1(第1大白歯)及び同左P3(第3小臼歯)・M3(第3大白歯)である。

同一地点から出土したこと及び、死亡年齢が同じであることから、同一個体の馬歯であると推定される。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より約13歳の牡駒馬であると推定される。特に、左右上顎M1(第1大白歯)は、脱臼かなり進んだ状態である。馬(ウマ)の場合、痕跡的でほとんど出土することのないP1(第1小臼歯)を除くと、M1(第1大白歯)は約1歳で萌出するために、加齢と共に脱臼が最も進むことが知られている。

(6) 27号溝

27号溝から、馬歯が出土している。上顎左P4(第4小臼歯)、下顎右P3(第3小臼歯)・同M3(第3大白歯)である。馬歯3本の出土位置は約1.5m以内にあること、また馬歯の色調及び死亡年齢がほぼ同じであることから、同一個体であると推定される。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より約11歳の牡駒馬であると推定される。

(7) 34号溝

34号溝から、馬歯の上顎右P2(第2小臼歯)の遊離歯が1本出土している。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より約5歳の幼駒馬であると推定される。

(8) 48号溝

48号溝から、馬歯の下顎右P2(第2小臼歯)の遊離歯が1本出土している。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より約8歳の牡駒馬であると推定される。

2. 引間松葉遺跡

引間松葉遺跡では、144号土坑・167号土坑・281号土坑から、獣骨が出土している。3基共、馬骨・馬骨である。

(1) 144号土坑

①出土状況・埋葬状態

土坑の大きさは不明であるが、出土状況から、埋葬状態は左側を下にして埋葬したと推定される。

②出土部位

馬(ウマ)の左右下顎骨が出土している。下顎右の出土歯はP2・P3・P4・M1の4本であり、下顎左の出土歯はP2・P3・P4・M1・M2・M3の6本である。



写真5. 引間松葉遺跡144号土坑出土馬歯

(左上下:下顎右P2~M1, 右上下:下顎左P2~M3)

③個体数

出土歯には重複部位が認められないため、個体数は1個体であると推定される。

④性別

犬歯及び寛骨が出土していないので不明である。

⑤死亡年齢

全歯高より約6歳の牡駒馬であると推定される。

(2) 167号土坑

①出土状況・埋葬状態

167号土坑から、馬(ウマ)の全身骨格が出土している。土坑は、長軸約160cm・短軸約110cm・深さ約30cmの楕円形土坑である。馬骨は、頭位を西側にし、右側を下にし、前肢及び後肢を折り曲げた状態の横臥(側臥)屈葬で埋葬されたことと推定される。

②個体数

出土馬歯及び馬骨には、重複部位が認められないため、個体数は1個体であると推定される。

③性別

馬(ウマ)の場合、性別は犬歯の有無及び寛骨の形態で推定することが可能である。本個体の場合、上下顎の犬歯が出土しているので、性別は雄(♂)であると推定される。

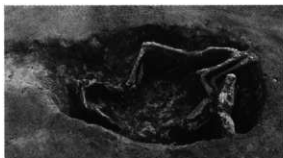


写真6. 引間松葉遺跡167号土坑出土馬骨出土状況

④死亡年齢

全歯高より、死亡年齢は、約5歳~5.5歳の幼駒馬であると推定される。本個体の場合、第3切歯・犬歯・第3大臼歯がすでに萌出している。これら、永久歯の萌出年齢は、馬の場合それぞれ、約4.5歳・4~5歳・3.5~4歳であるので、このことから、全歯高による死亡年齢推定が支持される。

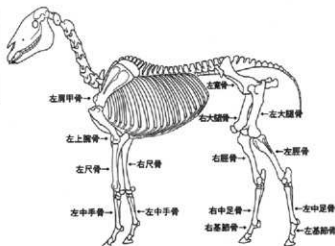


図4. 馬の全身骨格 [Young, 1981を改定]

⑤体高

身長を計測することができた、右胫骨及び中足骨から、体高を推定すると、それぞれ、120.6cmと121.4cmであった。したがって、本馬骨の生前の体高は、120.5cm~121.4cmであったと推定される。林田による区分では、小型馬は105cm~122cm・中型馬は129cm~138cmであるので、本馬骨は、小型馬に分類される。

⑥解体痕

馬骨には、解体の際につけられたカット・マークは認められなかった。つまり、本馬骨の場合、解体されずに丁寧に埋葬されたことを示す。このことは、本馬骨の出土状況が、解剖学的位置を保持していることから支持される。

本馬骨は、死亡年齢が約5歳~5.5歳の幼駒馬である。恐らく、若くして死んだ愛馬を、丁寧に埋葬したのであろう。

①古病理

・歯の異常磨耗

下顎左右P2(第2小臼歯)の近心部は、通常の咬合面よりも約5mmほど突出している。これは、恐らく、轡の馬(はみ)のために、異常磨耗をおこしたものと推定される。

・脱臼

右寛骨の寛骨弓部は、左寛骨の寛骨弓部よりも前後にわずかに長い。これは、恐らく、右寛骨部で脱臼が起きていた可能性が高い。残念ながら、右大腿骨の骨頭部は破損しているために、大腿骨から推定することは不可能である。

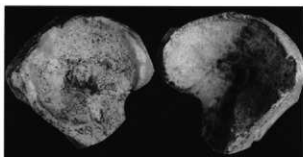


写真7. 引間松葉遺跡167号土坑出土馬骨
(左:左寛骨寛骨弓部, 右:右寛骨寛骨弓部。右寛骨の方が広がっており、脱臼跡の疑いがある。)



写真8. 引間松葉遺跡167号土坑出土馬骨近接
(左:右下顎骨, 右:左下顎骨) [左右P2の異常磨耗に注意]

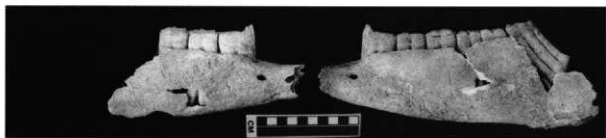


写真9. 引間松葉遺跡167号土坑出土馬骨(左:右下顎骨, 右:左下顎骨)

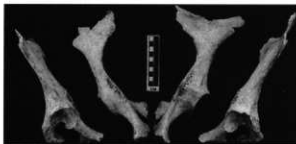


写真10. 引間松葉遺跡167号土坑出土馬骨
(左から:左寛骨側面観, 左寛骨上面観, 右寛骨上面観, 右寛骨側面観)

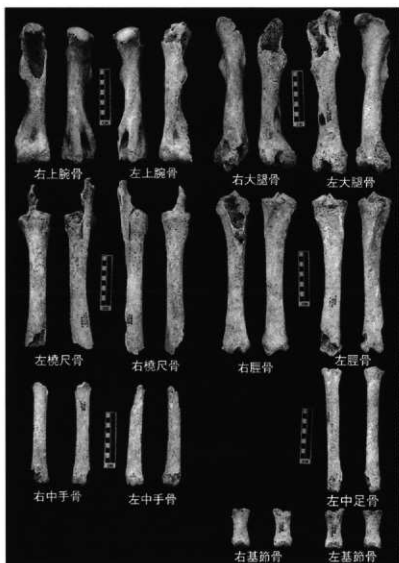


写真11. 引間松葉遺跡167号土坑出土馬骨四肢骨

(3) 281号土坑

①出土状況・埋葬状態

281号土坑から、馬骨が出土している。土坑は、長軸約100cm・短軸約80cmの大きさで、形状は楕円形である。馬骨の出土状況から、頭位は北側で、顔面部を西側に向け、右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。



写真12. 引間松葉遺跡281号土坑出土馬骨出土状況

②個体数

出土骨には、重複部位が認められないため、個体数は1個

体であると推定される。

③性別

馬(ウマ)の場合、性別は大歯の有無及び寛骨で推定することが可能である。本個体の場合、大歯及び寛骨は出土していないため、性別は不明である。

④死亡年齢

上下顎歯の咬合面を観察すると、咬耗がかなり進んだ状態である。わずかに計測することができた全歯高から、死亡年齢は約18歳～19歳であると推定される。馬(ウマ)の場合、17歳以上を老齢馬に分類するので、老齢馬に属する。

⑤解体痕

出土馬骨には、解体の際につけられたカット・マークは認められなかった。つまり、本馬骨の場合、解体されずに丁寧に埋葬されたことを示す。このことは、本馬骨の出土状況が、解剖学的位置を保っていることから支持される。

本馬骨は、死亡年齢が約18歳～19歳の老齢馬である。恐らく、長年使役した愛馬を、丁寧に埋葬したのであろう。



写真13. 引開松葉遺跡281号土坑出土馬骨(左上:右下顎骨, 右上:左下顎骨)

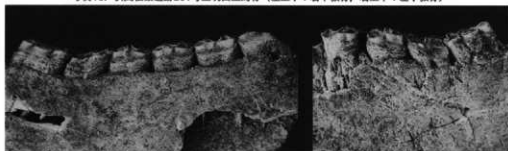


写真14. 引開松葉遺跡281号土坑出土馬骨近接(左:右下顎骨, 右:左下顎骨)

3. 塚田的場遺跡

塚田的場遺跡では、8号土坑から獣骨が出土している。

(1) 8号土坑

8号土坑は、長径約3m・短径約2m～2.2mの不整形土坑であり、土坑の性質はゴミ穴的である。この8号土坑から、獣骨が1点出土している。イノシシ(猪)かブタ(豚)の左尺骨片である。左尺骨片だけで、イノシシかブタの同定は困難で

ある。性別は不明である。左尺骨の肘頭部は、癒合が完了していない状態である。イノシシあるいはブタの場合、骨端部の癒合は約3歳で完了すると言われているので、死亡年齢は約3歳以下であると推定される。

また、本左尺骨の内側面の肘頭下に約13mmの解体痕であるカット・マークが認められた。



図5. 塚田的場遺跡8号土坑出土猪・豚左尺骨出土部位図 [Young, 1981を改定]



図6. 塚田的場遺跡8号土坑出土猪・豚左尺骨解体痕



写真15. 塚田的場遺跡8号土坑出土猪・豚左尺骨(左:内側面観、右:外側面観)

(2) 引間六石・引間松葉・塚田の場・塚田中原遺跡出土獣骨

4. 塚田中原遺跡

塚田中原遺跡では、10号及び20号住居・2号掘から獣骨が出土している。10号及び20号住居からは、馬(ウマ)の歯あるいは骨の破片が出土しているが、破片であるため、歯種や部位同定は不可能であり、性別や死亡年齢等を明らかにすることはできない。

ここでは、2号掘出土馬骨のみ記載することとする。

(1) 2号掘

2号掘から、獣骨が2点出土している。馬(ウマ)の左大腿骨幹部及び左脛骨幹部である。恐らく、同一個体であると推定される。性別及び死亡年齢は不明であるが、恐らく、成体であろう。引間松葉遺跡の167号土坑出土馬骨の同一部位と比較しても大きいため、中型馬であると推定される。

まとめ

(1) 遺跡の性質

引間六石遺跡・引間松葉遺跡・塚田の場遺跡・塚田中原遺跡より、馬を中心として、犬・猪か豚の獣骨が出土した。引間松葉遺跡で出土した、144号土坑・167号土坑・281号土坑の3基には馬(ウマ)が丁寧に埋葬されていた。

しかしながら、その他の遺跡では、掘・土坑・溝から獣骨の一部分しか出土していない。塚田の場遺跡の8号土坑及び引間六石遺跡の15号土坑の2基の土坑の性質は、ゴミ穴的である。その他の掘及び溝出土獣骨は、すべて、皮革生産や骨角加工に使用した廃馬を解体後に処理した例や折雨祭祀のために殉殺した例であると推定される。

西毛幹線遺跡出土獣骨は、元総社西川遺跡が馬(猪、

2001)、元総社西川・塚田中原遺跡が馬と犬(猪、2003)、塚田村東・塚田中原0区・引間松葉遺跡Ⅲ区が馬と犬(猪、2005)、権高辻久保遺跡が馬・牛・猪か豚(猪、2006)である。

これらの遺跡に共通して、出土獣骨は、馬を中心として、その他犬・牛・猪か豚が出土している。表1にすべての出土獣骨のまとめを、また表2に記載獣骨のまとめを掲載したので、参照されたい。

(2) 馬の体高

群馬県から出土した馬骨で、体高が推定されているものには、以下の遺跡がある。

それらは、下佐野遺跡(宮崎、1986)・三ツ寺遺跡(宮崎、1988)・上栗須遺跡(宮崎、1989)・下川田下原遺跡(宮崎、1993)・上栗須寺前遺跡(宮崎、1996)・中里見原遺跡(大江、2000)・高林三入遺跡(猪、2005)である。

これらの遺跡から出土した馬骨から推定された生前の体高は、それぞれ、下佐野遺跡[132cm・119cm]・三ツ寺遺跡[102cm]・上栗須遺跡[平均126.4cm]・下川田下原遺跡[120.5cm・124.7cm・133.7cm]・元総社寺田遺跡[159.4cm・131.6cm・142.8cm・133.3cm・130.7cm・128.7cm]・上栗須寺前遺跡[平均122.1cm]・中里見原遺跡[平均126.5cm]・高林三入遺跡[133cm~137cm]である。

林田重幸によると、日本在来馬の体高による区分は、小型馬が105cm~122cm、中型馬が129cm~138cmである。この分類に従うと、三ツ寺遺跡・上栗須寺前遺跡出土馬骨は小型馬、下佐野遺跡・元総社寺田遺跡・高林三入遺跡は中型馬、その他は小型馬と中型馬の混在となる。

表2. 引間六石遺跡・引間松葉遺跡・塚田の場遺跡・塚田中原遺跡出土獣骨まとめ

遺跡名	遺構名	種同定	部位同定	性別	死亡年齢	備考
引間六石遺跡	15号土坑	馬(ウマ)	下顎右P3	不明	約14歳	下顎骨に骨髄
		犬(イヌ)	上下顎遊離歯	雄(♂)	成体	-
	3号溝	馬(ウマ)	上下顎切歯、上顎左M3、下顎右M3	不明	約7歳	-
	4号溝	馬(ウマ)	下顎右M3、下顎左P2~M1	不明	約8歳	-
	5号溝	馬(ウマ)	上顎右P3・M1~M3、下顎右P3~M2	不明	約10歳	-
	10号溝	馬(ウマ)	上顎右P3~M1、上顎左P3~M3	不明	約13歳	-
	27号溝	馬(ウマ)	上顎左P4、下顎右P3・M3	不明	約11歳	-
	34号溝	馬(ウマ)	上顎右P2	不明	約5歳	-
	48号溝	馬(ウマ)	下顎右P2	不明	約8歳	-
	144号土坑	馬(ウマ)	左右下顎骨	不明	約6歳	-
引間松葉遺跡	167号土坑	馬(ウマ)	ほぼ全身骨格	雄(♂)	約5歳~5.5歳	歯の異常磨耗・右寛骨脱臼
	281号土坑	馬(ウマ)	右上顎骨・左右下顎骨・肩甲骨	不明	約18歳~19歳	-
塚田の場遺跡	8号土坑	猪(イノシシ)	左尺骨	不明	約3歳以下	解体痕
		豚(ブタ)	豚(ブタ)	不明	約3歳以下	-
塚田中原遺跡	2号掘	馬(ウマ)	左大腿骨・左脛骨	不明	成体	-

表3. 引間六石遺跡・塚田の場遺跡出土獣骨計測表

遺跡名	遺跡名	上 顎																							
		右									左														
		P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3												
		MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL		
引間六石	3号歯	-	-	28.8	25.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10号歯	-	-	30.0	26.2	25.9	破損	破損	-	-	-	-	-	-	27.7	25.4	25.2	25.8	22.7	26.0	23.2	24.8	26.7	22.8	
	22号歯 No.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	34号歯	34.2	23.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26.3	26.8	-	-	-	-	-	-	
区名	遺跡名	下 顎																							
		右									左														
		P2	P3	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3												
		MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL
引間六石	3号歯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4号歯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5号歯	-	-	27.5	15.8	26.2	15.4	25.6	12.7	25.3	13.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	22号歯 No.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.8	12.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27号歯 No.3	-	-	34.5	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
48号歯 No.3	33.2	13.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

註1. 計測値の単位は、すべて「mm」である。
 註2. 計測項目は、「MD」(歯冠近心径)・「BL」(歯冠唇舌径)を表す。
 註3. 歯根の、P2 (第2小臼歯)・P3 (第3小臼歯)・P4 (第4小臼歯)・M1 (第1大臼歯)・M2 (第2大臼歯)・M3 (第3大臼歯)を表す。
 註4. 「破損」は、歯が破損しており計測ができなかったことを示す。

表4. 引間松雲遺跡167号土坑出土馬骨計測値

計測部位	引間松雲遺跡	
	右	左
肩胛骨 (Scapula)		
肩胛骨最小長 (SLC: Smallest Length of the Collum scapularis)	54 mm	55 mm
肩胛骨最大長 (GLF: Greatest Length of the Procoracium articularis)	75 mm	-
肩胛骨窩最大幅 (LG: Length of the Glenoid cavity)	44 mm	-
肩胛骨窩最大径 (BG: Breadth of the Glenoid cavity)	41 mm	-
上 脛 骨 (Humerus)		
外側最大径 (GL: Greatest Length of the lateral part)	240 mm	-
最大径 (上腕骨頭から) (GLC: Greatest Length from Caput)	240 mm	245 mm
骨幹最小幅 (SD: Smallest breadth of Diaphysis)	30 mm	30.5 mm
遠位端幅 (Bl: Breadth of the distal end)	62 mm	-
近位端幅 (Bl: Breadth of the Trochlea)	60 mm	-
橈 骨 (Radius)		
RFp: Breadth of the Facies articularis proximalis)	61.5 mm	-
SD: Smallest breadth of Diaphysis)	31 mm	31 mm
CD: Circumference of Diaphysis)	92 mm	-
尺 骨 (Ulna)		
DPA: Depth across the Procoracium Anconaeus)	51 mm	-
SD: Smallest Depth of the Olecranon)	41 mm	-
RPC: Breadth across the Coronoid process)	-	29 mm
中 手 骨 (Metacarpal)		
骨幹最小幅 (SD: Smallest breadth of Diaphysis)	26 mm	25 mm
骨幹幅 (CD: Circumference of Diaphysis)	75 mm	75 mm
骨幹厚 (DD: Depth of the Diaphysis)	18 mm	17 mm
掌 骨 (Phalanx)		
最大長 (GL: Greatest Length)	74 mm	75 mm
骨幹最小幅 (SD: Smallest breadth of Diaphysis)	22 mm	22 mm
遠位端厚 (Dp: Depth of the proximal end)	-	28 mm
遠位端幅 (Bl: Breadth of the distal end)	-	35 mm
寛 骨 (Pelvis)		
寛骨弓長 (LA: Length of the Acetabulum including the lip)	56 mm	54 mm
寛骨弓長 (LAR: Length of the Acetabulum on the rim)	50 mm	45 mm
SH: Smallest height of the shaft of ilium)	18 mm	17 mm
SB: Smallest breadth of the shaft of ilium)	32 mm	31 mm
SC: Smallest Circumference of the shaft of ilium)	85 mm	87 mm
ILa: Inner Length of the Femoral (Femur)	61 mm	60 mm
大 腿 骨 (Femur)		
最大長 (GLC: Greatest Length)	304 mm	-
骨幹最小幅 (SD: Smallest breadth of Diaphysis)	32 mm	31 mm
骨幹幅 (CD: Circumference of Diaphysis)	117 mm	117 mm
脛 骨 (Tibia)		
最大長 (GL: Greatest Length)	314 mm	-
外側長 (L: Lateral length on the outer side)	300 mm	-
近位端幅 (Blp: Breadth of the proximal end)	66 mm	66 mm
骨幹最小幅 (SD: Smallest breadth of Diaphysis)	32 mm	31 mm
骨幹幅 (CD: Circumference of Diaphysis)	89 mm	89 mm
遠位端幅 (Bl: Breadth of the distal end)	56 mm	60 mm
遠位端厚 (Dd: Depth of the distal end)	15 mm	14 mm
中 足 骨 (Metatarsal)		
骨幹最小幅 (SD: Smallest breadth of Diaphysis)	-	-
骨幹幅 (CD: Circumference of Diaphysis)	-	-
骨幹厚 (DD: Depth of the Diaphysis)	-	-

引用文献 (著者名のABC順)

加藤高太郎 1993 『第二次増補訂改版 家畜比較解剖図説 上巻』, 養賢堂
 久保和士・松井 章 1999 『第10章. 家畜その2:ウマ・ウシ』, 『考古学と自然科学』 考古学と動物学 (西本豊弘・松井 章編), 同成社, p.169-208.
 松井 章 2003 『環境考古学マニュアル』, 同成社
 横崎修一郎 2001 『元総社西川遺跡出土馬骨』, 『元総社西川遺跡』, (財)群理文, p.91-94.
 横崎修一郎 2003 『元総社西川遺跡・塚田中原遺跡出土獣骨』, 『元総社西川遺跡・塚田中原遺跡』, (財)群理文, p.360-362.
 横崎修一郎 2005 『塚田村東、遺跡・塚田中原遺跡0区・引間松雲遺跡Ⅲ区出土獣骨』, 『塚田村東、遺跡・塚田中原(0区)遺跡・引間松雲遺跡』, (財)群理文, p.320.
 横崎修一郎 2006 『樽高辻久保遺跡出土獣骨』, 『樽高辻久保遺跡』, (財)群理文, p.451-457.
 西本豊弘・松井 章編 1999 『考古学と自然科学』 考古学と動物学』, 同成社
 大江正直 2003 『動物遺存体調査の手びき』, 私家版
 樽野博幸 1986 『けもの骨』, 大阪市立自然史博物館
 von den DRIESCH, Angela 1976 『A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites』, Peabody Museum Bulletin 1, Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University.

報告書抄録

書名ふりがな	ひきまろっこくいせき・ひきまつばいせき・つかだまどばいせき・つかだなかはらいせき
書名	引間六石遺跡・引間松葉遺跡・塚田の場遺跡・塚田中原遺跡
副書名	一般県道前橋・足門線バイパス(西毛広域幹線道路)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	4
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	397
編著者名	菊池 実
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20070323
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ひきまろっこくいせき
遺跡名	引間六石遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしひきままち
遺跡所在地	群馬県高崎市引間町(旧群馬県群馬郡群馬町大字引間)
市町村コード	10345
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362308
東経(日本測地系)	1390105
北緯(世界測地系)	362321
東経(世界測地系)	1390040
調査期間	20021108-20030930
調査面積	5089.1
調査原因	道路建設工事
種別	集落/田畑/その他
主な時代	奈良平安/中近世/近現代
遺跡概要	集落-奈良平安-住居跡54+土坑121+ピット179+溝36+竪穴状遺構2/中近世-土坑・溝
特記事項	旧陸軍前橋飛行場跡隣接地
遺跡名ふりがな	ひきまつばいせき
遺跡名	引間松葉遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしひきままち
遺跡所在地	群馬県高崎市引間町(旧群馬県群馬郡群馬町大字引間)
市町村コード	10345
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362309
東経(日本測地系)	1390124
北緯(世界測地系)	362321
東経(世界測地系)	1390040

調査期間	20021108-20030930
調査面積	8746.7
調査原因	道路建設工事
種別	集落/田畑/その他
主な時代	奈良平安/中近世/近現代
遺跡概要	集落-奈良平安-住居跡27+土坑382+ピット414+溝33+掘立柱建物2+堅穴状遺構5/中近世-土坑・溝/近代-土坑
特記事項	旧陸軍前橋飛行場跡隣接地
遺跡名ふりがな	つかだまとはいせき
遺跡名	塚田の場遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしつかだまち
遺跡所在地	群馬県高崎市塚田町(旧群馬県群馬郡群馬町大字塚田)
市町村コード	10345
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362308
東経(日本測地系)	1390116
北緯(世界測地系)	362321
東経(世界測地系)	1390040
調査期間	20030616-20030703
調査面積	2127.5
調査原因	道路建設工事
種別	集落/田畑/その他
主な時代	奈良平安/中近世/近現代
遺跡概要	集落-奈良平安-住居跡5+土坑36+ピット88+溝7/中近世-土坑/近代-建物跡1
特記事項	旧陸軍前橋飛行場跡隣接地
遺跡名ふりがな	つかだなかはらいせき
遺跡名	塚田中原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしつかだまち
遺跡所在地	群馬県高崎市塚田町(旧群馬県群馬郡群馬町大字塚田)
市町村コード	10345
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362313
東経(日本測地系)	1390124
北緯(世界測地系)	362321
東経(世界測地系)	1390040
調査期間	20010620-20021024
調査面積	3575.5
調査原因	道路建設工事
種別	集落/田畑/その他
主な時代	奈良平安/中近世/近現代
遺跡概要	集落-奈良平安-住居跡24+土坑87+井戸2+ピット102+溝7+堅穴状遺構1/中近世-土坑・堀/近現代
特記事項	旧陸軍前橋飛行場跡隣接地

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第397集
引間六石遺跡・引間松葉遺跡・塚田の場遺跡・塚田中瀬遺跡
一般県道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）
建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集
第一分冊 本文・遺構図版編

平成19年（2007年）3月16日印刷

平成19年（2007年）3月23日発行

発行／編集 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8355 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地の2

電 話 0279-52-2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毎印刷工業株式会社
